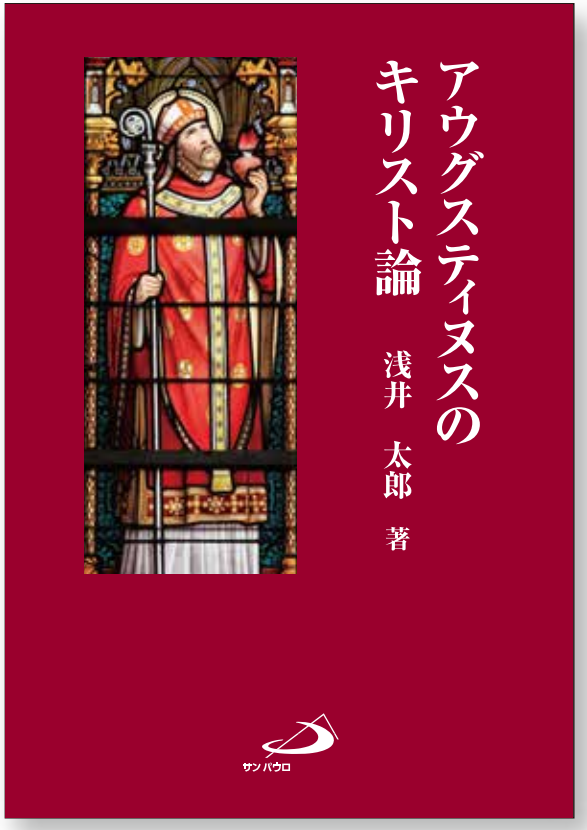
4月10日(月)発売予定

サンパウロ 新刊案内



アウグスティヌスのキリスト論

浅井　太郎 著

「イエス・キリストとは何者なのか？」

西方キリスト教会の精神的支柱として、中世ヨーロッパの神学と哲学の形成に決定的な影響を及ぼし、「西方教会最大の教父」と称えられる聖アウグスティヌス。偉大な神学者、哲学者、そして説教者として比類なきこの聖人が、イエスをどう捉えていたかという根本命題の探求を通して、今日のキリスト者としての信仰、教会の持つ豊穣な神秘について学ぶ。著者は東京カトリック神学院の教員として、日々、邦人司祭の育成に当たる。

著者紹介　**浅井　太郎**（あさい　たろう）

1970年　名古屋市に生まれる。
2006年　南山大学大学院にて博士号（文学）取得。
2010年　上智大学にて教皇庁認可の哲学教授資格取得。
2012年　カトリック名古屋教区司祭に叙階。数年間小教区主任司祭として司牧に従事。
2014年　教皇庁認可の神学教授資格取得（在名古屋教皇庁認可神学部にて）。
2015年　日本カトリック神学院非常勤講師となる。
2020年　東京カトリック神学院養成者（学務担当）となる。
現在、同神学院で哲学科の授業をいくつか担当している。
他にカトリック中央協議会列聖委員会委員、NPO法人岐阜ダルク理事長、南山大学非常勤講師。
著　書　『今日のカトリック神学―展望・原理・基準』（カトリック中央協議会）
訳　書　『涙の谷における薔薇の園―キリストに魂の癒しを求めて』（アドスリー）

• A5判 • 500頁 • 並製 • 本体 4,000円+税 • ISBN978-4-8056-0070-2 C3016